



CPA

FOR OUR FUTURE

その力を、社会の力に



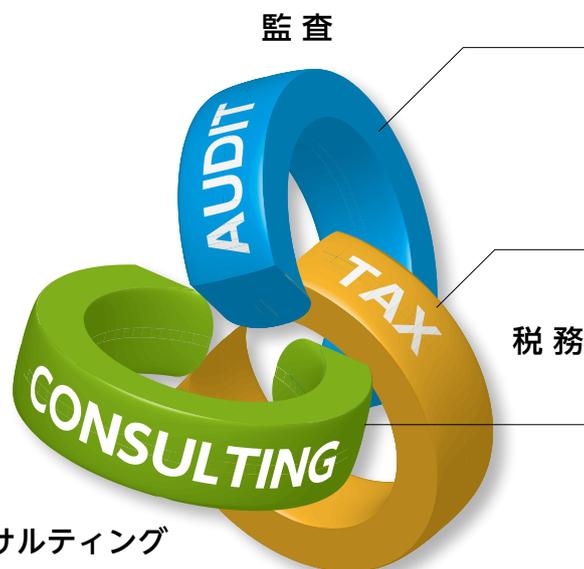
JICPA
日本公認会計士協会

CPAという言葉を知っていますか？



CPAという 力。

会計のスペシャリストとして、
企業等の公正な経済活動・社会の健全な発展に
重要な役割を担う専門家、それがCPAです。
著しく変化する現代社会にあって、その高い専門的能力
へのニーズはますます拡大。監査・税務・コンサルティングの
基本業務のみならず、国内外のM&A、株式公開支援業務などに加えて
組織内会計士として、幅広い分野で活躍が期待されています。
CPAの力が、ビジネスの、経済の、そして社会そのものを動かす力になる。
限りなく広がる可能性と夢を手に入れる選択がここにあります。





CPAという 未来。

IT化や経済のグローバル化・ボーダレス化が進むに
したがって、CPAの高い専門知識と分析力、判断力への
ニーズは一層高まっています。活躍する場も
企業にとどまらず、各省庁をはじめ地方公共団体、独立行政法人など、
社会を動かす中核で、広がり続けています。
自分のスキル、自分の経験、自分の先を読む力が、
社会を変える力になる。CPAには未来を動かす力があります。

監査

CPAだけに認められた業務で、企業等の決算書が正しく作成されている
かなどについて、第三者の立場からチェックします。大きく、法律などに
基づく監査、任意監査、国際的な監査があり、透明性のある社会・経済
を築くために非常に重要な仕事です。

税務

CPAは税理士登録すれば税理士になることができます。企業・個人の税
務書類の作成や税務相談、また国際税務など幅広い知識を活かして、指
導やアドバイスをを行います。

コンサルティング

経営戦略の立案から組織再編、情報システムの構築、事業再生計画の
策定、株式公開に関するトータルサポートなど経営全般にわたる指導やア
ドバイスをを行います。まさに企業を動かす力になる仕事です。

公認会計士法第1条に 「公認会計士の使命」が 規定されています。

公認会計士は、
監査及び会計の専門家として、
独立した立場において、
財務書類その他の財務に関する
情報の信頼性を確保することにより、
会社等の公正な事業活動、
投資者及び債権者の保護等を図り、
もって国民経済の健全な発展に
寄与することを使命とする。

その力を、
社会の力にしているCPAが、
います。

Voices of CPA

CPAだから広がるその未来を、
すでに第一線で活躍している
スペシャリストの仕事から見てみましょう。

 **監査**

Audit

 **株式公開支援**

Initial Public Offering

 **ビジネスアドバイザー**

Business Advisory

 **独立開業**

Entrepreneur as
Professional Accountant

 **海外駐在**

Overseas Assignment

 **組織内会計士**

Professional Accountant
in Business



監査 Audit

経済・企業活動のグローバル化に伴い、国際財務報告基準(IFRS)や国際監査基準(ISA)など、会計・監査の基準も国際化が進んでいます。企業がそれに対応していくには、公認会計士の指導やアドバイスが欠かせません。

現在、監査業務に従事しています。担当しているのは、自動車部品会社や不動産投資法人、ホテル業などで、多種多様な経歴を持つチームメンバーと協力し合い、監査意見の表明という明確なゴールに向かって日々、作業を進めています。

監査業務の魅力は、多様な関係者とコミュニケーションを図れることにあります。監査の過程で、経営層や経理部門はもちろん、営業、人事、法務など様々な部門の方と話す機会があり、いろいろな考え方に触れられるのは実に貴重な経験です。各人の思いや考え方を理解したうえで、監査人という立場から会社の期待に応えていくことを心がけています。

監査で大切なのは、その会社のビジネスを深く理解することだと思います。そうした理解があつてこそ、監査上のリスクを把握し、効果的かつ効率的な監査を行えるからです。ビジネスを取り巻く環境は日々、急速に変化しています。そうした変化に対応するため、日頃から業界動向をチェックし、知識をアップデートするのは大変ですが、大きなやり甲斐も感じています。

会社のグローバル化や会計・監査基準の国際化に対応していくためには、会計士自身が会社の成長に貢献するという意識を持ち、学び続けることが大切です。プロフェッショナルとしての誇りを持って、価値の高いサービスを提供し、多くの方から信頼される公認会計士になりたいと思っています。

はりがい たかし 針谷 隆 さん

青山学院大学経営学部卒業
14年監査法人入所
監査事業部で監査業務に従事



「監査業務の魅力は、
多種多様な考え方に触れられること。
大切なのは、会社のビジネスを深く理解し、
その成長に貢献するという意識」



株式公開支援 Initial Public Offering

株式公開に向けてスケジュールを立て、証券会社なども交えて必要な準備や手続きを進める支援を行います。経営管理体制を上場企業で必要とされる基準や水準に改善していくためのアシストやアドバイスも求められます。



「大企業も初めはスタートアップ企業であつて、
株式公開を経て、今の日本経済を支える企業に
まで成長しています。今後の日本経済を支える
企業を輩出していく支援ができるということは、
社会的役割期待の大きい業務だと思います」

いしかわ もとき 石川 資樹 さん

慶応義塾大学環境情報学部卒業
05年監査法人入所
監査事業部で上場会社の監査業務を経て
株式公開支援業務を担当

マネージャーから上場会社の監査業務に加えて、株式公開を目指す会社の監査を担当するようになり、現在はパートナーとして株式公開支援業務の管轄をしています。

上場会社の監査と異なり、税務ベースで行われている会計処理を会計基準に従った処理にするアドバイス、内部統制の整備・運用についてアドバイスをするといった業務も多くなりますが、金商法・会社法の監査現場で経験を積み、多くの会社のあるべき形を学んできたからこそ、的確なアドバイスができると思います。

株式公開を目指す会社には、社長や社員の年齢が比較的若いベンチャー企業が多く、上場という一つの目標に向かって一緒に頑張ろうという意識が自然と湧いてきます。経営者からの直接の相談も多く、経営者と同じ目線を持ってビジネス戦略やビジネスリスクを考え、アドバイスできるのは、公認会計士の魅力であり、やり甲斐だと思います。

昨今では、オープンイノベーションの促進ということもあり、今では想像できないような技術、革新的な新製品や商品、サービス、ビジネスモデルが生まれており、それをマネタイズした会社が多く出てくると思います。そのような会社がどのようなビジネス戦略で成長していくかを間近で感じることができ、その支援ができるということは、公認会計士として大きな糧になりますし、今後も多くのスタートアップ企業を支援していきたいと思っています。



ビジネスアドバイザリー

Business Advisory

クライアントが直面する課題やニーズに対して、解決策を提案・実行していくのがアドバイザリー業務です。プロジェクトごとに状況が異なるため、業種や業務に応じた専門知識と創造力が求められます。

監査法人入所時は特定分野に強くなりたいと思っていました。実際に働いてみて、守備範囲の広さが会計士の魅力なら、自分も幅広くキャリアを積みみたいと考えるようになり、ファーム内の部署異動制度を利用してアドバイザリー部門へ異動しました。

アドバイザリー部門では、主に規制対応アドバイザリー業務を担当し、規制の理解・分析力が要求されます。そのため、規制条文を日々読んで業務への影響を理解しておく必要があります。また、公表直後の規制内容には論点が多く、どこにも答えのない問題も少なくありません。そうした状況で、チームメンバーやクライアントと協同し、情報を集め、最適な解を探していくプロセスに、とてもやり甲斐を感じています。また、手順書通りに遂行するのではなく、手順書自体を作り上げていく点も、この業務ならではの魅力です。

監査業務を通じて、資料を批判的に検討する職業的懐疑心が身に付きました。常に疑問を持って接するというこの姿勢は、今のアドバイザリー業務にも役立っており、公認会計士として保持し続けたいと考えています。国際金融規制対応という業務の性格上、今は多様なバックグラウンドを持つ優秀なメンバーに囲まれて働いています。各メンバーの長所を可能な限り吸収し、さらにプロジェクト管理能力や英語力なども身に付けて、状況の変化に対応できる会計士になりたいと思っています。

おさきりょういち

尾崎 亮一さん

関西学院大学文学部卒業

10年監査法人入所

監査部門を経て14年よりアドバイザリー業務に従事



「どこにも答えのない問題の解をメンバーやクライアントと協同して探していくそれがビジネスアドバイザリーの醍醐味」



独立開業

Entrepreneur as Professional Accountant

独立開業した公認会計士には、多様な業種・規模の中小企業などから経営管理、会計、税務、内部統制などにおいて、良きアドバイザー、パートナーとしてのサポートが求められています。



「女性でも自分の名前で仕事を受けられる。独立のメリットを活かして子育てと仕事をしっかりこなし、知識もますます充実させていきたいです」

ここのまのぞみ

小駒 望さん

中央大学商学部卒業

06年監査法人入所

投資ファンド運営会社、会計事務所を経て、

10年会計士事務所を設立

公認会計士の魅力は、資格に基づいて自分の名前で仕事を受託し、サービスを提供できることだと思います。企業の命運を決める場面もあり、責任は重いですが、その分やり甲斐もあります。私自身、監査業務からバイアウトファンド、会計業務を経て独立開業しましたが、今後また組織に属することも可能と考えています。業務や働き方の選択肢の幅が非常に広く、大きな可能性を手にできる資格です。

個人事務所では現在、法人と個人に対する税務・会計支援をメインに、保証業務や事業譲渡・合併のアドバイザリー、株価算定や事業計画作成支援などのコンサルティング業務を行っています。また、個人として上場・非上場会社の社外役員にも従事しています。携わる業務の変化に伴い、監査法人時代に比べて自分がクライアントや社会の役に立っていると実感できる場面が多くなりました。また、独立後は時間等の様々な資源を自分の裁量で決定することが可能になり、仕事とプライベートのバランスがとりやすくなりました。

2人の子供はいずれも繁忙期直前に出産しました。在宅での仕事の環境は整えていましたし、大半の業務は在宅でも対応可能なこともあり、出産後はすぐに仕事に復帰しました。スタッフをはじめとする周囲の方々のサポートに支えられて、混乱なく繁忙期を終えることができました。

仕事もプライベートも一層の充実を目指し、引き続き取り組んでいきたいと思っています。



海外駐在

Overseas Assignment

企業のグローバル化に伴い、企業の海外進出や会計の国際化が進んでいます。それに対応するために、海外勤務経験があり、世界で通用する専門性と柔軟性を持合わせた公認会計士が求められています。

グローバルに事業を展開する大企業の会計監査を担当する中で、経営課題の的確な理解・議論・解決には、海外駐在の経験が不可欠だと考えるに至りました。そこで、入社6年目の2016年9月から2年間、オランダに赴任しました。

現地では、日系企業の会計監査だけでなく、経営者からの相談に応じたり、セミナーを開催したりして、幅広く日系企業をサポートしました。日系企業が相手とはいえ、上司や同僚はほぼ全員外国人です。魅力的なサービスを提供するには、優れたチームワークが重要であり、チームワークを向上させるには、異文化の深い理解や発信力、コーディネーション力といった様々なスキルが求められます。赴任当初は、物事がうまく進まないことも多々ありましたが、経験を積み重ねるうちに次第に要領を得て、最終的には日系企業の経営者から感謝の言葉をいただけるサービスを提供できるまでになりました。この充実した2年間は、その後の大きな自信につながっています。

監査法人勤務でも、公認会計士には数年ごとにステップアップの機会があり、環境の変化や業務の多様性は非常に刺激的です。私自身、オランダでの海外駐在を通じて、幅広い価値観を養うことができました。この経験を活かして、グローバルな視点からの知見・専門性・洞察をさらに深め、グローバルに活躍する日本企業を支えていきたいと考えています。

三輪 篤史 さん

京都大学経済学部卒業
10年監査法人入社
監査部門を経て、16年から2年間オランダのグループファームに outward
18年に監査部門に帰任、20年よりAsia Pacific関連業務を兼務



「グローバルに活躍する日本企業を支えるには自分自身にもグローバルな視点や経験が必要。海外駐在で身に付けた価値観やスキルは自分の大きな自信にもつながる」



組織内会計士

Professional Accountant in Business

企業や官公庁など、公認会計士の専門的な知識・経験・判断力が必要とされる場面は増える一方です。IPOやM&A、資金調達など企業の経営に近い部門で、またはCFOとしての活躍に期待が寄せられています。



「数値データや改善策を通じて、企業の活動に貢献できるところが魅力。ライフイベントに応じて働き方を変えられるので女性でも一生仕事を続けられます」

石田 友梓 さん

慶應義塾大学経済学部卒業
04年監査法人入所
09年に渡米、現地企業2社を経て
15年に帰国、家電メーカーで財務報告、内部統制などを担当

現在は、月次や四半期ごとの決算レポートの作成、親会社からの問い合わせへの対応などを担当しています。経理や決算業務の責任者を務めたときは、監査法人と違ってメンバーの知識レベルもバラバラなので、それをまとめる力が求められました。また、かつてとは逆に外部監査に対応する立場となり、財務報告は作るのと見るのでは視点が異なってくること、監査を受ける側も資料の準備などが大変なことを実感しています。企業の中で働くことには、管理会計なら数値データを使って経営陣や営業部署の活動に直接貢献できる、内部統制なら改善策を通じて会社のオペレーション改善という成果が見える、そういう魅力ややり甲斐があります。

会計や監査は、国や会社の業態にかかわらず、どこでも通用するスキルであり、公認会計士という資格によって選択肢や可能性は大きく広がります。また、女性にとっては、様々なライフイベントに応じて働き方を変えられるのも魅力です。私自身、この資格があれば、多少のインターバルがあってもキャリアに支障はないと考え、監査法人を退職してアメリカに留学しました。在米時にはアメリカやメキシコ、今はシンガポールや中国のメンバーとのやりとりを経験していますが、仕事の進め方やコミュニケーションのとり方はそれぞれに異なるので、新たな発見があります。将来は、どの国でも通じる会計のプロフェッショナルになりたいと思います。

試験制度



どうすればCPAになれますか？

CPAの資格は、国家試験に合格し、2年間の業務補助等と実務補習で所定の単位を取得し、修了考査を経た後にはじめて与えられます。道のりは決してたやすいものではありませんが、CPAの社会的責任とステイタスはそれだけ高いと言えます。

公認会計士試験実施スケジュール

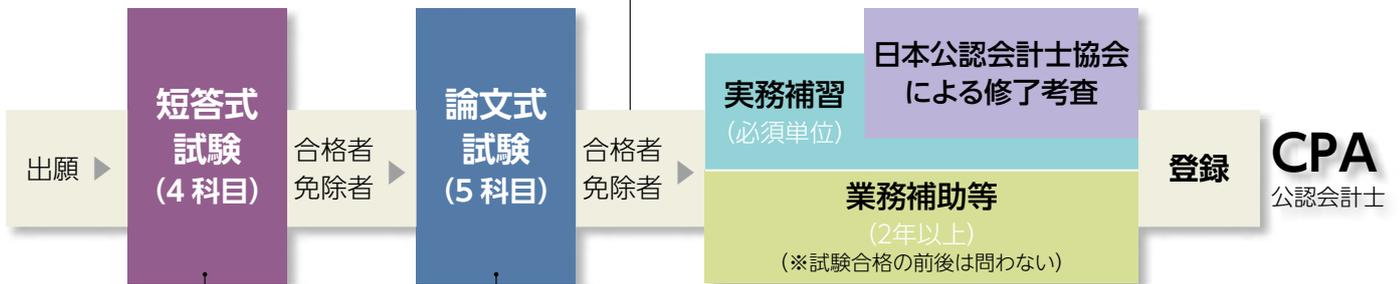
公認会計士試験は、金融庁の公認会計士・監査審査会が実施しています。試験日程やインターネット出願については、公認会計士・監査審査会ウェブサイトをご覧ください。

(<https://www.fsa.go.jp/cpaob/index.html>)



公認会計士試験

試験の流れ→



短答式試験科目

科目名	配点	試験時間	問題数	出題範囲の要旨
財務会計論	200点満点	120分	40問以内	簿記、財務諸表論、その他企業等の外部の利害関係者の経済的意思決定に役立つ情報を提供することを目的とする会計の理論
管理会計論	100点満点	60分	20問以内	原価計算（材料、仕掛品及び製品等の棚卸資産評価並びに製品に関する売上原価の計算）と管理会計（会計情報等を利用して行う意思決定及び業績管理）
監査論	100点満点	60分	20問以内	公認会計士又は監査法人による財務諸表監査、中間監査、四半期レビュー及び内部統制監査の理論、制度及び実務
企業法	100点満点	60分	20問以内	会社法、商法（海商並びに手形及び小切手に関する部分を除く）、金融商品取引法（企業内容等の開示に関する部分に限る）などの法律

※年2回実施
※短答式試験合格者は、翌年及び翌々年の2年間、短答式試験の免除を受けることができます

論文式試験科目

科目名	配点	試験時間	問題数	出題範囲の要旨
会计学	300点満点	300分	「大問」5問	財務会計論及び管理会計論
監査論	100点満点	120分	「大問」2問	短答式試験科目に同じ
企業法	100点満点	120分	「大問」2問	短答式試験科目に同じ
租税法	100点満点	120分	「大問」2問	租税法総論と租税法実法（法人税法、所得税法、消費税法など）、また必要に応じ、これらに関連する租税特別措置法、並びに法令の解釈・適用に関する実務上の取り扱い
経営学*	100点満点	120分	「大問」2問	経営管理と財務管理
経済学*				ミクロ経済学とマクロ経済学
民法*				民法第1編[総則]、同第2編[物権]、同第3編[債権]並びに関連する特別法
統計学*				記述統計、確率、推測統計、相関・回帰分析の基礎

※年1回実施 *印は、4科目中1科目選択

合格者データ

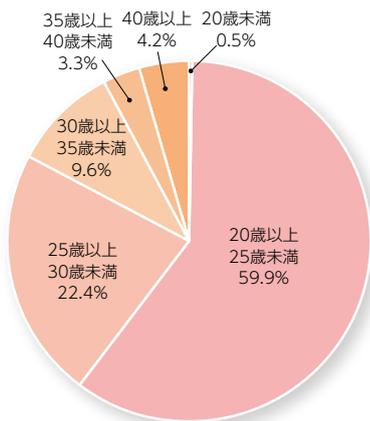
公認会計士試験合格率

年	願書提出者数 (A)	論文式受験者数 (B)	合格者数 (C)	合格率 (%)	
				(C) / (A)	(C) / (B)
2017	11,032	3,306	1,231 (242)	11.2	37.2
2018	11,742	3,678	1,305 (266)	11.1	35.5
2019	12,532	3,792	1,337 (315)	10.7	35.3
2020	13,231	3,719	1,335 (328)	10.1	35.9

女性の合格者数は年々
増えています。女性の活
躍フィールドも広がっ
ています。

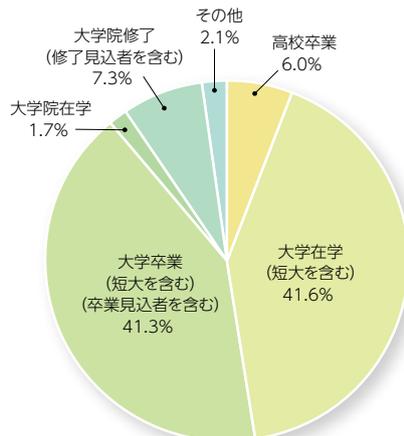
※願書提出者数は、第Ⅰ回短答式試験及び第Ⅱ回短答式試験のいずれにも願書を提出した受験者を名寄せして集計したもの
※合格者数の()の数値は、合格者数に含まれる女性合格者の人数

2020年 年齢別合格者割合



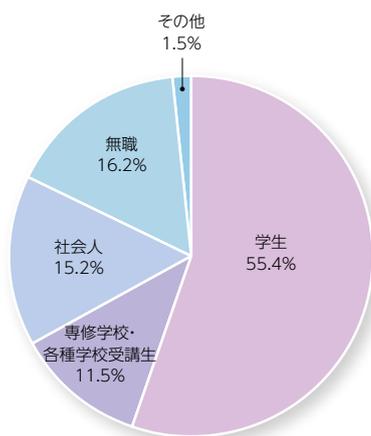
20歳以上25歳未満の割合が最
も多く、20歳代の合格者は8割
を超えています。合格者の平均年
齢は25.2歳、最高年齢は62歳、最低年齢は18歳です。

2020年 学歴別合格者割合



大学在学、大学卒業の合計割
合が8割を超えています。大
学在学中の合格者は、大学卒
業後に公認会計士として働き
始めるのが一般的です。

2020年 職業別合格者割合



試験勉強に多くの時間を割く
ことができる学生、専修学校・
各種学校受講生の合格者が7
割近く、社会人の合格者は1
割以上となっています。

※構成比の合計は端数処理の関係で100%にならない場合があります

実務補習生の就職・内定状況

	2017年度 (2017年12月時点)		2018年度 (2018年12月時点)		2019年度 (2019年12月時点)	
	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)
監査法人等	1,123	92.6	1,224	94.5	1,240	94.2
一般会社等	74	6.0	48	3.7	55	4.2
計	-	98.6	-	98.6	-	98.4

資本市場における公認
会計士の需要の高まり
により、公認会計士の
就職状況は非常に好調
です！

※2020年度は、入所時期が例年より遅いため、前年度以前を掲載しています 提供：一般財団法人会計教育研修機構

FAQ

about CPA



試験について about CPA Examination

CPAについての
素朴な疑問から、
仕事の内容、
将来性に関することまで、
みんなが知りたい
「？」にアンサー。

**公認会計士試験は、
在籍する学部による
有利不利はありますか。**

経済学部、商学部、経営学部
といった学部の合格者が比較
的多いですが、昨今は、法学
部や理数系学部の合格者も増
えており、様々な学部の出身
者が合格しています。学部に
よる有利不利はあまりないと
言えるでしょう。

**CPAの業務に
英語や
ITスキルは
必要ですか。**

米国や他の外国のCPA
の資格を取得しても、日
本のCPAの資格が与えら
れる訳ではなく、日本で
の監査の責任者となるこ
とはできません。

**会計専門職大学院を卒業した場合、
試験の一部科目免除などがありますか。**

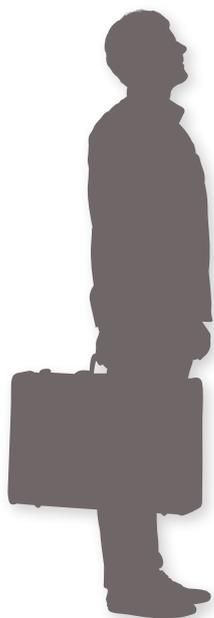
公認会計士試験短答式試験の
「財務会計論」、「管理会計論」、
「監査論」が免除になります。

**公認会計士試験と税理士試験を
同時に受験できますか。**

試験は日程が別々なので両方受験でき
ますが、同時に合格することは容易で
はありません。CPAは税理士登録すれ
ば税理士になることができます。加え
て、行政書士登録をすれば行政書士に
なることもできますし、不動産鑑定士
試験において一部の受験科目が免除に
なります。このようにメリットが大き
いので、公認会計士試験に絞って挑戦
してはどうでしょう。

**CPAの業務は
大都市圏にしか
ありませんか。**

大都市圏に限らず、全国で業務
を行うチャンスがあります。監
査法人は全国各地に事務所が
あり、地元企業に監査やコンサル
ティング、IPOなどのサービス
を提供しています。個人で開業
する場合は、税務業務が主となる
場合が多いようです。また、全
国各地の企業や地方公共団体等
において、専門的知識を活かし
た組織内会計士として活躍する
こともできます。





仕事について about CPA Work



将来について about CPA Prospect

企業活動のグローバル化に伴い、CPAの業務範囲も世界規模に広がっています。また現在のビジネス環境においては、ある程度のITスキルは必要であり、これはCPAも同様です。そのため、英語やITのスキルを有するに越したことはありませんが、公認会計士試験合格後に勉強しても十分に合います。

AI(人工知能)は監査の仕事にどのような影響がありますか？

AIを活用することによって、より高度なデータ解析などを実施できるようになるため、AIの活用による監査業務の品質向上と効率化の両立が今後の課題になると考えられます。AIを有効に活用することによって、監査人は、経営者等とのコミュニケーション、専門家としての判断等に注力できるようになると思われ、監査の品質と効率性を高めることが期待されます。

CPAの有する知識、能力は経済社会にとって必要不可欠なものなので、会計・監査及び経営に関する専門的知識や経験を活かし、会計事務所や監査法人だけでなく、「組織内会計士」として多種多様な企業及び組織の一員として活躍しています。例えば、一般企業(金融機関、証券会社、商社、製造業等)、コンサルティング会社、官公庁や教育機関で活躍している人や、財務捜査官として経済犯罪の捜査にあたっている人もいます。

米国CPAの資格を取得すれば、日本でもCPAとして働けますか。

CPAの勤務先は、会計事務所や監査法人以外にどのような場がありますか。

仕事上で男女が区別されることはありませんので、能力が十分発揮できるのではないのでしょうか。女性のCPAも増えており、毎年、公認会計士試験合格者の約2割が女性です。多くの監査法人には、産休制度や育児休暇制度が整備されています。また復職後には短期間労働制を選択することも可能です。このような制度を利用しながら仕事を続けている女性CPAは多くいます。個人事務所を開業すれば自分のペースで仕事を行うことも可能です。

個人差もあるので期間の特定はできません。CPAの資格取得後早ければ3年程度で独立する人もいます。

女性が活躍しやすいというのは、本当でしょうか。

独立するまでにどれくらいの期間が必要ですか。

資格自体に定年はありませんが、監査法人等では規定されている場合が多いようです。残業、転勤等も就業形態によります。監査法人勤務の場合は一般企業と似た面がありますが、独立開業の場合は自由業と同様です。本人次第で様々な選択ができます。

海外勤務することはできますか。

日本のCPAの資格や語学力を活かして、海外の会計事務所やグローバル企業などで勤務することも可能です。監査法人の場合、海外の会計事務所と提携し、世界の主要都市に駐在員を派遣している場合が多いです。

CPAに定年がありますか？
また、残業や転勤はどうでしょうか。

Road to CPA

公認会計士試験合格者に聞いた、CPAを目指した理由と合格までの道のり



さとう わかな
佐藤 若菜 さん
合格時 21歳
大学在学中合格

「自分の性格に合う勉強スタイルを確立することが大切。
コツコツ努力しただけ、自分に返ってくるものがあるはず」

公認会計士の受験を決意したのは、大学受験が希望どおりにいかず、学生生活4年の間に何かを成し遂げて挽回しようと考えたからです。受験勉強に専念するようになってからは、誘惑に負けないように、できるだけ予備校に行って勉強するよう心がけました。

私の性格では、行き当たりばったりで勉強したのでは効率が落ちてしまうと思ったので、月・週ごとに目標とやることのリストを作成し、それを7等分して毎日のやることリストも作成しました。そして毎日寝る前に、その日にやり終えた項目に線を引いて消し、勉強内容や一日の行動を細かく記録しました。この記録から、自分の時間の使い方を見直し、計画を改善することができたの

です。大切なのは、自分の性格を把握して、それに合う勉強スタイルを確立することだと思います。短答式試験は2回目、論文式試験は2回目で合格し、学生生活を有意義なものとすることができました。

公認会計士の魅力は、大卒の人や前職がある人など、さまざまなバックグラウンドをもつ人と一緒に仕事ができること、そして女性の場合は出産・育児後も職場復帰しやすいことだと思います。簡単に取得できる資格ではありませんが、自分を信じて乗り越えたときの達成感は素晴らしいし、地道にコツコツ努力しただけ自分に返ってくるものがあるはずで

「優秀な人と自分を比べず、平均点を超えることに集中。
苦勞して目指す価値は十分にあるので、迷わず合格を目指して！」

将来に備えて、大学生の間に何か価値のあることを成し遂げたいと思っていたところ、公認会計士について知り、その仕事内容や経済社会での役割、監査が独占業務であることなどに魅力を感じて、受験を決意しました。

試験勉強中は、最も大切なのはメンタルの管理だと考え、学習計画は容易に達成できるものにしました。達成できなかつたと後悔する回数より、目標の上を行っているという自己満足感を得られる回数が多くなるからです。また、周囲の優秀な人や努力家の人を比較対象にすると必要以上にプレッシャーがかかってしまうため、あくまでも平均点を超えることだけに集中していました。ただし、人と話すと刺激をもらえ、悩みを共有してストレスを発散できるので、予備校仲間とは適度なコミュニケ

ーションを取ったほうが良いと思います。序盤から中盤までは、どうすれば「効果的かつ効率的」に学習できるかばかりを考えていました。結果的に無駄になった時間もありますが、そうした過程を経て確立した学習方法だからこそ自信も持てましたし、予備校のカリキュラムどおりに短答・論文式試験を1回で合格できたのも、そのおかげだと思っています。

公認会計士には、多業種へ関与できる、選択肢や活躍の場が多いといった魅力があります。私が目指しているのは、スタートアップ企業が市場で活躍できるようサポートできる会計士です。苦勞して目指す価値は十分にある資格ですから、迷わずに合格を目指してください。



なかむら りょうすけ
中村 亮介 さん
合格時 21歳
大学在学中合格

「将来の仕事につながるとして、全体像の把握を意識しました。
たとえ長引いてしまっても、それだけの価値があると信じて続けましょう！」

大学では国際関係を学んでいて、公認会計士を目指すことになるとは思っていませんでした。漠然と社会をよくする仕事がしたいと思って就職活動をしていたものの、自分にできることがわからず迷っていました。そこで、専門知識を身に付けようとして簿記の勉強を始めてみてその面白さを知り、その先にあったのが公認会計士の仕事だったのです。

試験勉強では、ただ暗記するだけではなく、「これが将来の仕事につながる」という思いで全体像を把握することを意識しました。周りの友人たちが社会人となっていく中、ひとりで勉強を続けるのはとても不安でした。それでも勉強を続けられたのは、その「投資」にそれだ

けの価値があると思えたことと、それを応援してくれる人たちがいてくれたおかげです。短答式試験は結局8回受験しました。みなさんの中にも予想以上に長引いてしまう人がいるかもしれませんが、諦めずに頑張ってください！

公認会計士の魅力は仕事の選択肢や可能性が広いことだと思います。世界中どこでも会計的な知識は必要とされていて、会計士が必要とされるフィールドはますます広がっていくことでしょう。私自身は、公的機関などへの監査・アドバイザーを行う分野の仕事をしたいと思っています。それが、就活時に考えていた、私たちの社会が抱える問題の解決につながっていくと信じています。



かい せい ほん か
貝瀬 陽香 さん
合格時 27歳
卒業後合格

アニメブック



解説動画
「公認会計士のしごととAI」



Vision for the future
舞台は世界 | グローバルに活躍する
「会計プロフェッション」たち



日本公認会計士協会ウェブサイト
「広報ツールライブラリー」ページで
ご覧いただけます。



日本公認会計士協会
<https://jicpa.or.jp/>



https://twitter.com/jicpa_kouhou



<https://www.facebook.com/JICPA.Kouhou>

日本公認会計士協会

〒102-8264
東京都千代田区九段南4-4-1
公認会計士会館
TEL (03) 3515-1120

- 都営新宿線 市ヶ谷駅
- 東京メトロ有楽町線・南北線 市ヶ谷駅
- JR 中央線・総武線 市ヶ谷駅





Engage in the Public Interest

社会に貢献する公認会計士



日本公認会計士協会